

# 教育の変化

## 国民の教育

江戸時代の仙台では、武家の子弟は藩校・養賢堂で様々な学問や武術を学び、庶民は寺子屋や私塾で「読み・書き・そろばん」を中心に学びました。

明治5(1872)年、欧米の制度を取り入れた「学制」が發布され、全国民を対象とする近代教育が始まりました。仙台でも明治6(1873)年から小学校が設置され、寺子屋や私塾の場所を活用した学校も多くありました。

その後、明治12(1879)年に「教育令」が、明治19(1886)年に「小学校令」が公布され、明治33(1900)年には義務教育の無償化が実現しました。



片平丁小学校の石垣

明治6(1873)年に創立された同校は、仙台藩の学者・岡千仞が開いた私塾・麟経堂の敷地を利用しており、西側の石垣の一部は、江戸時代の姿を残している可能性があります。

## 今回取り上げた主な遺跡・文化財 MAP



発掘現場から  
文化力  
POWER OF CULTURE

仙台市文化財パンフレット 第75集



桜ヶ岡公園遺跡 池跡と噴水遺構



仙台城跡出土 - 明治期 - 陶磁器(茶碗)



桜ヶ岡公園遺跡出土 洋食器



桜ヶ岡公園遺跡出土 支柱式天狗眼鏡

明治150年  
文化財からたどる  
仙台の近代化

1868



めぐちゃん

平成30(2018)年は明治元(1868)年から数えてちょうど150年に当たります。明治以降、日本は急速に近代化の歩みを進め、仙台においても人々のくらしは江戸時代からの習慣と西洋の新しい文化とが入り混じった生活に徐々に変化していきました。

仙台市教育委員会では、これまで数多くの発掘調査により仙台の歴史を明らかにしてきましたが、今回は明治時代(近代)の文化財資料をまとめました。西洋の生活様式に変化していく時代の息吹を感じていただき、この展示が郷土の歴史理解をさらに深めていただく一助になれば幸いです。

明治年表

年号	仙台のできごと	日本のできごと
1868	仙台藩を盟主として奥羽越列藩同盟が成立するが、9月に降伏する	戊辰戦争が起こる 五箇条の御誓文が定められる
1871	廃藩置県により、仙台藩が仙台県となる 東北鎮台が仙台城二の丸跡に設置される	廃藩置県が行われる 岩倉使節団が派遣される
1872	仙台県を宮城県と改称する	学制が発布される
1873	現仙台域に37の小学校と3つの分校が開校する	徴兵令が公布される
1874		民撰議員設立の建白書が出される
1877		西南戦争が起こる
1882		立憲改進黨が結成される
1887	第二高等中学校(旧制二高の前身)が創立される 仙台駅が開業する 東北本線上野～仙台～塩竈間が開通する	
1889	市制施行、仙台市が誕生する(人口86,352人)	大日本帝国憲法が発布される
1890		第一回総選挙が行われる 第一回帝国議会が開催される
1891	東北本線全線が開通する	
1894	仙台電灯株式会社が開業し、市内に初めて電灯がともる	日清戦争が起こる
1895		下関条約が締結される
1896	三陸地震津波で大きな被害を受ける	
1897	河北新報が創刊される。常磐線が開通する	
1900	市内に電話が開通する。仙台電話交換局が設置される	
1902		日英同盟が結ばれる
1904		日露戦争が起こる
1905		ポーツマス条約が締結される
1907	東北帝国大学が創立される	
1909	仙台瓦斯株式会社が創立される(1941年市営化)	
1911	東北帝国大学理科大学が設置される	



仙台城の変化

Ⅱ 仙台城の変遷

仙台城は、初代仙台藩主伊達政宗により造られました。二代藩主忠宗は、政宗が晩年を過ごした若林城の建物などを移築し、二の丸を造営すると、政治・儀式的場は本丸から二の丸に移りました。これ以降、二の丸は藩政の中心となり、この体制は幕末まで続きます。



上空から見た仙台城跡

明治維新後、本丸大広間は破却され、二の丸には東北鎮台(後に仙台鎮台に改称)が置かれます。二の丸の建物は引き続き利用されましたが、明治15(1882)年の火災により、多くが失われました。明治19(1886)年、仙台鎮台が陸軍第二師団に改編されると、二の丸には師団司令部が置かれ、昭和20(1945)年の太平洋戦争の終戦まで軍事拠点としての役割を果たしました。

Ⅲ 仙台城本丸大広間跡に謎の近代遺構

仙台城本丸大広間跡の近代溝状遺構の底面近くより磁器が見つかりました。遺構の用途等は分かりませんが、大広間跡の一部を壊していること、印判手の磁器皿(型紙を器の上に押し付け、文様をうつし出す手法で作られた皿)が見つかったことにより、この遺構が明治時代前半頃のものであることが分かりました。



本丸跡の調査で見つかった近代の溝状遺構のようす



印判手の磁器皿

# 建築物の変化

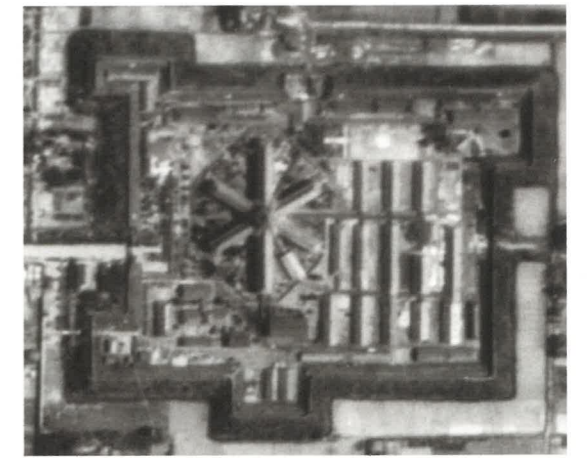
## 洋風建築の普及

明治時代になると、建物にも欧米文化を取り入れて、洋風建築が造られていきます。洋風建築は、近代化の象徴として、特に役所などの公的機関や、学校関係の建物に積極的に取り入れられました。

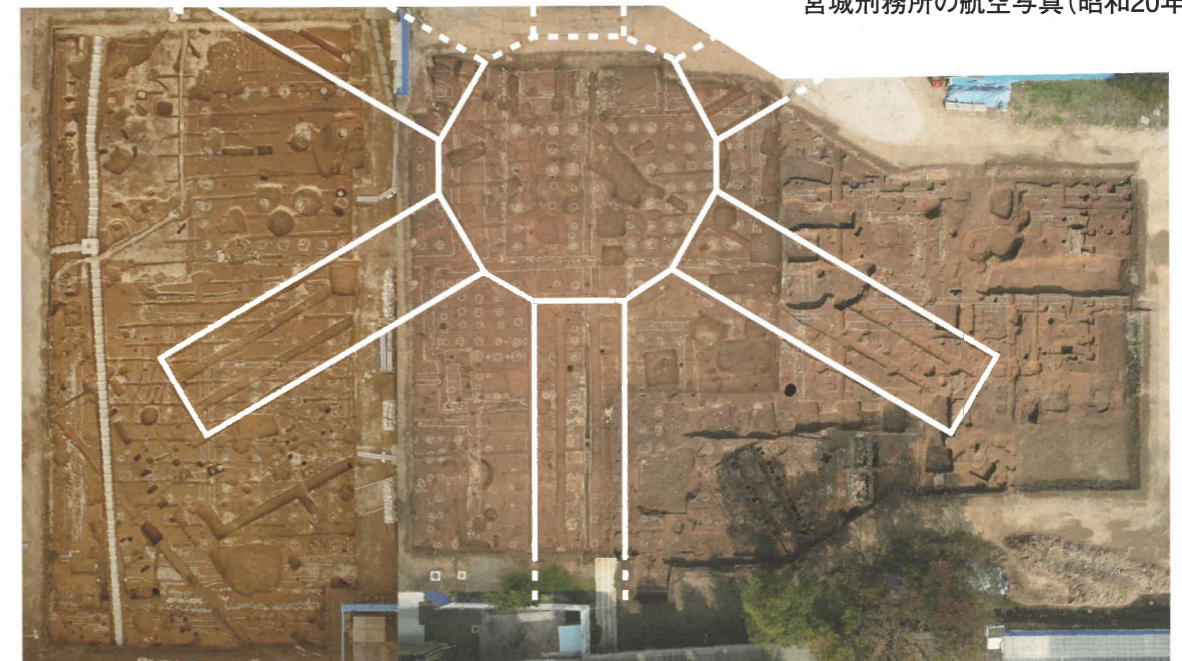
洋風建築には、従来の日本の建築では使われていない、レンガやガラス、天然スレートといった新しい材料が使われ、その実用性から、従来の日本の建築にも取り入れられていきます。これらの製品は、当初輸入に頼っていたため非常に高価であったことから、早くから国産化に向けた取り組みが進められました。

## 発掘された宮城集治監

宮城刑務所の前身である宮城集治監では、囚人らによる天然スレート石盤の製造が行われました。明治12(1879)年に完成した宮城集治監本監(六角塔)は、六角平面の塔を中央に備え、そこから放射状に6棟の獄舎が配置された画期的なもので、塔の頂点にある尖塔屋根には、天然スレートが葺かれていました。



宮城刑務所の航空写真(昭和20年)



見つかった宮城集治監本監(六角塔)の建物基礎

## 仙台城二の丸の調査成果と明治時代

二の丸第12地点の調査では、陸軍第二師団輜重隊が捨てたと考えられる食器や歯ブラシなどの遺物が見つかりました。

日用品が多数出土したことは、平時の軍隊の姿を知る手掛かりとなりました。また、時代の経過とともに道具が画一化される様子は、軍隊が整えられていく過程を明らかにするうえで重要な発見であると考えられます。



二の丸第12地点3層遺物出土状況  
〔東北大学提供〕

## 調査成果からみた三の丸の移り変わり

三の丸跡は、水堀と土塁に囲まれた曲輪でした。江戸時代の城下絵図には「蔵屋敷」「御米蔵」「東丸」などと記載されており、年貢米などを貯蔵する蔵が置かれていたと考えられます。発掘調査では、美濃伊賀の陶器などが出土し、庭園や茶室をとまなう政宗の屋敷があったことが分かっています。

三の丸巽門東側の発掘調査では明治期に軍隊に採用された有溝式の蹄鉄が見つかりました。

また、長沼の南側では銃弾がまとまって出土しました。付近に陸軍第二師団の射撃場があったことから、これらの遺物は、軍隊で使用されたものと考えられ、明治以降、三の丸が軍隊により利用されていたことが分かります。



美濃伊賀水指  
〔仙台市博物館所蔵〕



有溝式蹄鉄

## くらしの変化

### くらしの近代化

明治時代になると人々のくらしの中に西洋の文化が取り入れられ、人々のくらしにも大きな変化がありました。現在、私たちにとってなじみのあるものばかりですが、当時の人々には最先端のものでした。



挹翠館の建物基礎

### 明治時代の衣・食・住

#### 新たな装い

江戸時代までは人々の衣装は和服が一般的でしたが、洋服が着られるようになりました。洋装は軍隊でいち早く取り入れられました。仙台城二の丸跡からは軍服のボタンや革靴、またメガネが出土しており、徐々に洋装が広がっていたことが分かります。



仙台城二の丸跡出土の  
明治時代頃のメガネ

#### 食卓を彩る食器

食卓を彩る食器も変化しました。西洋からもたらされた洋食器やガラス製の瓶が流通するようになりました。桜ヶ岡公園遺跡(現西公園)からは、かつてここに建っていた、和洋料亭「挹翠館」で使われていたと考えられるフランス産の磁器が出土しています。



桜ヶ岡公園遺跡出土の  
フランス産磁器

#### くらしを支える新たな施設と設備

上下水道や三居沢発電所などの施設や設備が造られました。仙台城二の丸跡では照明器具であるランプや電灯の傘などが出土しており、電力供給に伴い電化製品が流通していたことを示しています。

## 交通の変化

### 交通の近代化

明治時代を迎えると、政府は街道港湾施設の整備による交通基盤の近代化を目指しました。県内の運河の新たな開削や拡幅工事、鉄道の開通は仙台の交通・運輸に大きな変化をもたらしました。

### 発掘された近代土木施設 ～貞山堀舟溜り跡～

蒲生は仙台にもっとも近い陸揚げ港として重要視され、明治20(1887)年から明治23(1890)年にかけて、貞山堀の拡幅や浚渫工事が行われました。

2016年度に行われた発掘調査では貞山堀舟溜り跡の護岸石積みが見つかり、数時期の変遷があったことが分かりました。古い石積みは塩竈港周辺で産出した凝灰岩を素材としており、幕末から明治時代の港の岸壁などで見られるような石の積み方をしています。このことから調査で見つかった古い石積みは明治時代に造られたものと考えられます。



舟溜り跡南岸の護岸石積み

### 鉄道の開通

明治5(1872)年に新橋～横浜間に鉄道が開通し、この後、日本各地で鉄道の建設が進められました。明治20(1887)年12月15日には上野～塩竈間に鉄道が開通し、仙台駅が開業しました。これまで仙台～東京間の移動は馬車で4日かかっていましたが、鉄道が開通したことにより約12時間と大幅に短縮されました。